

東京オリンピック（五輪）が8日閉幕した。17日に及んだ大会期間中、新型コロナウイルスの国内の新規感染者は17万人超増え、医療を圧迫した。五輪選手団と一般の人たちを分離した「バブル方式」。その内側と外側で何が起きていたのか。感染爆発の中、これまでとはまったく様相が異なる五輪。コロナ対応が問われただけでなく、膨れ上がった費用、課題が浮き彫りになった理念、商業主義などと今後も向き合うことになります。残されたものは何か、6回の連載で検証します。

感染爆発の中で五輪閉幕

2021年8月9日

賛否の17日間が残したものは

五輪は何を残したか ①

五輪は何を残したか デザイン・米澤章憲



「陽性率の低さは安全性が確保された一つのエビデンス（証拠）」

7日にあった東京五輪大会組織委員会の記者会見。中村英正・運営統括は、選手や大会関係者らに延べ約60万件の検査をし、陽性者は138人（6日時点）、陽性率は0・02%だったことを挙げて、そう述べた。組織委によると、7月1日以降、バブル内外で資格認定証を持つ430人（8日現在）が陽性と判明した。内訳は組織委の業務委託先

の業者が236人で最も多く、大会関係者が109人、選手が29人、メディアが25人、ボランティアが21人、組織委職員が10人だったが、21棟の居住棟にベッド1万8千床がある選手村の居住者に限ると感染者は32人（8日現在）。医療機関に入院したのは3人だった。来日しながら陽性判定を受けたり、チームメイトが陽性となったりするなどして出場できなかった海外選手が19人いた。クラスター（感染者集団）は大会終盤にギリシャ選手らの例が確認されたが、大会関係者は「選手村固有の感染ではなく、経路もわかっている」と明かす。

感染拡大を抑え込めた要因について組織委幹部は「先手先手の対応」が功を奏したとみる。東京



都や国の協力を得て保健所機能を強化し、陽性者が出ると、濃厚接触者の疑いがある人を洗い出して個室に移動させ、動線を細かく指示。選手村での隔離が難しい場合は、村外に用意したホテルに移動してもらうなどの対応も徹底したという。

各国の国旗などが掲げられていた東京五輪の選手村=2021年8月4日、東京都中央区、嶋田達也撮影

ただ、ほころびもみられた。国際オリンピック委員会（IOC）や組織委は、観光目的で外出したジョージアの柔道選手ら8人の資格認定証を剥奪（はくだつ）。別の8人の資格認

定を一時停止し、16人を厳重注意とした。

村内で働いていた女性は、各選手の振る舞いに差があったと証言する。黙々と10分で食事を終える選手がいる一方、20人ほどで盛り上がり、誰かの誕生日なのか「ハッピーバースデー」を歌ったりするチームもあった。村内で酒盛りをしているのも何度か見かけ、村外のコンビニやスーパーで酒類を大量に買い込む人もよく目にしたという。

メディカルスタッフ「選手村の対策は成功、全体の流れには穴」

組織委幹部は「プレーブックは性善説に立っており、すべてを取り締まるのは難しい」と語る。

村内の総合診療所で働いたメディカルスタッフの男性によると、選手やスタッフらが施設に入る際はサーモグラフィーを使って体温をチェックし、メディカルスタッフも毎日PCR検査を義務づけられた。アクリル板の設置や距離をとるなどの対応もとって、診療所については「特別なものはないが、できるコロナ対策は一通りやっていた」と振り返った。しかし、ボランティア用のシャツで来てそのまま活動する人など、バブル外から来る人への対策が不十分だったとみる。実際、アルバイトの中には勤め先の指示で4日に1度の定期検査が始まったのは開幕から1週間ほど経ったころだったと証言した人もいる。

この男性スタッフは水際対策についても、空港内で選手団や大会関係者と一般入国者の動線が交わるなど、不備があったと指摘。「選手村での対策は成功したといえるレベルだが、全体の流れを見ると穴はあった」とし、**バブル内外に感染が拡大するリスクはあった**との見方を示した。（遠藤隆史、伊木緑）

コロナ患者に食事を運ぶ看護師=2021年8月7日午後6時11分、横浜市港北区の横浜労災病院、川村直子撮影

救急外来の当直、電話20件「異常事態だ」

バブルの外は、感染の急拡大に見舞われた。

「ピコーン、ピコーン」

7日夜、横浜市港北区にある横浜労災病院のコロナ病棟。ナースステーションでは、入院患者の血中酸素が減っていることを知らせる警告音が頻繁に鳴っていた。テレビで五輪を見て、興奮して息切れを起こす患者もいる。「なぜいま五輪なのか、と思います」。看護師の一人はそう言った。

中等症から重症の患者のために32床を用意しているが、31床が埋まっている。前日に1日あたりの感染確認が初めて2千人を超えた神奈川県では、県全体の病床使用率も62%に達し、「ステージ4（感染爆発段階）」だ。救命救急センターの竹下諒医師（34）は、首から五輪のIDをぶら下げ、病院の隣にある日産スタジアムへ向かった。男子サッカーの決勝で救護を担うためだ。「サッカーは好きだし、五輪の開催も否定しない。ただ、病院が大変な時に、『行っているのかな』という思いはあります」

2日前、救急外来（ER）の当直に入った。コロナ患者の受け入れを要請する電話が、朝までに20件あった。「異常事態だ」と感じた。

要請が重なる場面が何度もあった。救急から容体を聞き取り、より重篤な患者を優先して受けた。「断った患者には、何とか家で頑張ってもらいたいと祈る気持ちでした」

コロナ対応、ワクチン接種に加え、五輪への協力を求められた病院では「三重苦」が深まった。横浜労災病院の場合、指定病院として治療にあたった大会関係者は熱中症になったボランティアなど3人。中森知毅・救急災害医療部長は「直接の負荷は大きくなかった。ただ、そもそも医療現場は限界にある」と話す。東京都墨田区にある東京曳舟病院は、医師3人と看護師3人を計4日間、競技会場に派遣。6人は休日を返上して医務室に入った。三浦邦久副院長は「五輪を手伝っても代休が取れる状況ではなく、スタッフは疲弊している」。中等症向けの18床は、7月中旬から埋まったまま。救急外来も発熱患者であふれている。



開幕日、国立競技場周辺には約 5200 人の人出

コロナ患者に対応するため防護具を着用する看護師ら。一晚で数十回脱ぎ着することもあるという=2021 年 8 月 7 日午後 5 時 57 分、横浜市港北区の横浜労災病院、川村直子撮影

菅義偉首相は「東京の繁華街の人流は開幕前と比べて増えていない」と五輪開催と感染拡大の関連を否定している。東京都、国際オリンピック委員会（IOC）も同様の見解だ。

しかし、局所的には顕著な人出がみられている。

NTT ドコモの携帯電話の位置情報から推計すると、五輪の開幕を祝う航空自衛隊のブルーインパルスが飛んだ 7 月 23 日午後 0 時台、国立競技場周辺の人出は約 5200 人に達した。それまでの 1 週間平均と比べて 3 千人ほど多く、混雑は夜まで続いた。各競技会場周辺にも時として人だかりができた。

アルコールの提供停止に応じない飲食店も増え、渋谷をほろ酔いで歩いていた 40 代の女性は「五輪はやってるのに、まさか国民には自粛しろだなんて言わないよね」と話した。

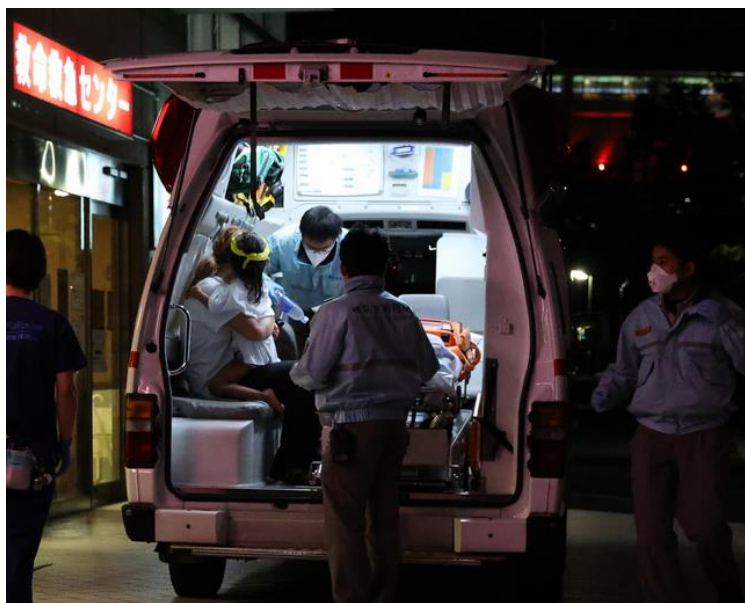
内閣官房参与で、大会組織委員会にコロナ対策を助言してきた岡部信彦・川崎市健康安全研究所長は、「五輪による間接的な影響は否定できない。人々の気持ちは、どうしてもお祭り騒ぎの方が



優先されてしまう。みんなの気持ちが緩むのはリスクになる」と指摘する。

救急搬送された母子。後方の横浜国際総合競技場では五輪サッカー男子決勝が行われていた=2021 年 8 月 7 日午後 9 時 20 分、横浜市港北区の横浜労災病院、川村直子撮影

国際医療福祉大の和田耕治教授（公衆衛生学）は「人流全体のうち、どれくらいが五輪によるものかを分析するのは難しい」としつつ、「政府は緊急事態宣言を出す際、なぜ商業施設の閉鎖など強いメッセージを出さなかったのか。五輪をやろうとして躊躇（ちゅうちょ）したのだとすれば、その影響は大きい」と話す。（姫野直行、枝松佑樹）



コメントプラス



中小路徹 朝日新聞編集委員=スポーツ、社会 2021 年 8 月 9 日投稿

【視点】五輪の閉幕とともに思うのは、「現実逃避」も終わり、ということです。

開幕後まもなく、新型コロナウイルスの陽性判定を受け、倦怠感、頭痛、咳に襲われながら、デジタル版のニュースやテレビ中継に触れてきました。少しずつ快方に向かいながら、私はいらだちました。感染が人々の身近に忍び寄る現実が報じられるものの、後は「メダルラッシュ」一色の風潮に。

幸いに「軽症」だった私より苦しい症状と戦いながら、十分なケアも受けられずに横たわっている人たちもたくさんいる。そんな問題が山積みの現実から目をそらせることに、スポーツが図らずも寄与してしまっていないか。そんないらだちが募ったのです。五輪を通じ、競技そのもののおもしろさは改めて伝わりました。そして、難しい状況の中でベストを尽くした選手たちの姿は、心を動かすものがありました。選手の努力と、そこから共感を呼び込むスポーツの力は発揮されたと思います。

ただ、今回の五輪は、**経済波及効果ばかりをもくろみ、政治利用をしたい層がそのスポーツの力をゆがめ、しっかりとした理念も示されずに多くの人が違和感を唱える中で開催が強行されたプロセス**があった。そのゆがみを祝祭感に覆い隠されたまま放置してはならないと思うのです。本来は別のことに発揮できる**スポーツの力を現実逃避に利用するのは、終わりです。この五輪の検証はこれからが本番です。**



常見陽平 千葉商科大学准教授・働き方評論家 2021年8月9日投稿

【視点】これは良記事。「五輪は何を残したか」は検証するべきだ。今朝の社説が生ぬるかったので、一服の清涼剤となった。

「五輪は何を残したか」私なりに考えた。この記事にインスパイアされ、社説風にまとめてみた。「ぼくがかんがえるさいきょうのあさひしんぶんしゃせつ」をこ

で紹介する。

■欺瞞に満ちた「平和の祭典」

人類は、戦争のときは平和を祈り、平和になると戦争の準備をしてきた。世界のどこかでは常に戦争、戦闘がある。「平和」とは何だろう。皮肉なことに、東京五輪は過去最高にこの問題を提起してしまったという点で「大成功」ではないか。人類は感染症の爆発的拡大と経済的破局の深刻化という未曾有の歴史的危機に直面している。この「穏やかではない」状態で五輪は強行されてしまった。**この「平和の祭典」は、人々の「我慢」によって成り立っている。**家族を失った人、仕事を失った人、今まで通りには働けない人、人生の楽しみを我慢せざるを得ない人、何かを諦めた人によって成り立っている。「パラレルワールド」という言葉も流行ったが、テレビやスマホに映し出される五輪の光景は、キラキラして見えたかもしれないが、心から喜べなかった国民も多いのではない。**五輪とは何か、平和とは何か。**人々がこれらの問題を考える機会になったとは信じたい。

■成長も成熟もせず

この五輪の欺瞞性、瞞着性を象徴するものが、開会式、閉会式ではなかったか。**我が国が成長も成熟もしていないことを万国の労働者に伝えるステージだった。**五輪には良くも悪くも国家のビジョンを伝える機能がある。しかし、ここで我が国がどんな国でありたいのか、何が強みなのかという点がまったく抜け落ちていた。あったとしても、それは別に圧倒的優位ではないことは明らかだった。演出も登場人物もただひたすら無難で古かった。世界の人々に響くのか不安になった。いや、世界の人々が誰でも知っている日本の人がいない、少ないという点が可視化されたのではない。まるで会社の社員総会のようにひたすら内向きであった。アニメやゲームのキャラクターがもっと登場するべきではなかったか。あるいは、二度も原爆を起こされ、震災や原発事故を経験した我が国だから強く主張すべきことはなかったか。五輪閉会式の主役は、選手であり、次の夏の五輪開催国のフランスだった。歴史、文化、この国が何を大切にしてきたかがにじみ出るものだった。高揚感とジェラシーが同居してしまった人も多いことだろう。世界の中心で時代を遅れを叫んでしまった。これが東京五輪ではないか。

■マチズモを削りとり、新世代という希望

この五輪開会式、閉会式には、電通的な何か、男社会的な何かの終わりを感じた。皮肉なことに、これが五輪の「遺産」ではないか。ライター武田砂鉄の『マチズモを削り取れ』（集英社）が話題を呼んでいる。日本にはびこるマチズモ＝男性優位主義の実態を徹底検証したものだ。「男、めっちゃ有利なのだ。男、めっちゃ優位なのだ」本書の主張はこれだ。五輪で可視化されたのは、マチズモである。数々の問題発言があった。期間中にも、名古屋市長の河村たかしが、女性選手の金メダルにかじりつくだけでなく、セクハラ発言を連発するという事案があった。この**日本の問題、周回遅れであるという事実を可視化した点は大きい。**これを五輪の「遺産」として、社会を変える機会としたい。成長、成熟がないわけではない。空前のメダルラッシュだった。もちろん、ホームだからなどという理由はあるだろう。ただ、それだけではなく、日本のスポーツが進化したことは素人目にみてもわかる。ここは直視したい。これまでとは練習方法も視野も異なる選手たちが育ちつつある。開会式では国内外の選手が、スマホを片手に入場してきた。この件について違和感を抱い

た人もいることだろう。今回から正式種目となったスケートボードの瀬尻稜さんによる解説が「フランクすぎる」とも話題となった。「鬼ヤバいっすね」「いや〜ハンパねえっす」「ゴン攻め」などと連呼した。マナー違反だとみる向きもあるだろう。しかし、これまでの枠をこえた若者の存在が、五輪の数少ない希望だった。

■ポエム政治に死を

今回の五輪で連呼されたのは、ポエムだった。「この感動を、次はニッポンで!」「復興五輪」「コンパクト五輪」「人類が感染症に打ち勝った証」など、俗耳に馴染むスローガンが連呼された。いちいち主張はふわふわしていた。しかし、この言葉に一部の国民がおどらされていたこともまた事実だ。五輪はいったん終了した。まだパラリンピックはあるが、いったん日常に戻ろう。脱・密室、脱・空気の支配、脱・男社会などを志向しよう。高い授業料を払った倫理の授業だった。無駄にしてはいけない。最後に、選手、大会を支えた人、医療従事者、五輪で何かを我慢せざるを得なかった人に心からの敬意を。

「祝祭感」ツイート実らず

2021年8月10日

菅首相、誤算だった感染拡大

朝日新聞
DIGITAL

TOKYO 2020

五輪は何を残したか ②

グラフィック・米澤章憲



「開催国としての責任を果たし、無事に終わることができた。選手の皆さん、大活躍だった。素晴らしい大会になった」。9日、長崎市での平和祈念式典に出席後、記者会見に臨んだ菅義偉首相は東京五輪をこう振り返った。五輪で国民の高揚感を高め、衆院解散・総選挙になだれ込む――。安倍晋三前首相の「後継者」として政権を引き継いだものの、無派閥で党内基盤が脆弱（ぜいじゃく）な首相にとって、五輪は政権浮揚

の「起爆剤」となるはずだった。

「有権者は首相に嫌気」迫る衆院任期

開催への道筋をつけるため、期待をかけたのが新型コロナウイルスのワクチン接種だった。接種の加速化で感染状況をコントロール可能なレベルにするという「楽観シナリオ」に、官邸内は染まっていった。複数の閣僚から開催中止を迫られても、首相は「ワクチン接種を加速させる」などと反論し、取り合わなかった。

東京に4度目の緊急事態宣言を出すことを正式決定した7月8日の記者会見でも、首相は「ワクチンの効果がさらに明らかとなり、病床の状況などに改善が見られる場合には、前倒しで解除することも判断する」と強調。感染状況の改善に自信をのぞかせた。

五輪開幕前に受けた米紙ウォールストリート・ジャーナル日本版のインタビューでは、周囲から中止が最善の判断だと何度も助言されたことを明かした上で、「やめることは一番簡単なこと、楽なことだ」とし、「挑戦するのが政府の役割だ」と語ってみせた。

開幕すると、日本選手のメダルラッシュに沸いた。首相は日本選手の金メダル第1号となった柔道の高藤直寿選手に祝意の電話をかける姿を報道陣に公開。首相の公式ツイッターでは連日、「大

変な快挙です！」などと祝意のツイートを投稿し続け、祝祭感を強調してみせた。

東京五輪の閉会式に出席した(左から)
菅義偉首相、東京都の小池百合子知
事、東京五輪・パラリンピック大会組織
委員会の橋本聖子会長=2021年8月8
日、国立競技場、長島一浩撮影



高まる「お祝いムード」を意識してか、関係者によると、一時は首相が五輪の競技を競技場で観戦するプランも検討された。ただ、感染対策で国民にテレビでの観戦を求めながら、自らが観戦に向かうことで批判を招きかねないとして、**首相の観戦計画は立ち消え**となったという。

その一方で、感染の急拡大が続き、事態は「政権にとって最悪のシナリオ」（政権幹部）を歩んでいく。7月23日の開幕時、1300人ほどだった東京の新規感染者数は、同28日に初めて3千人を突破。その3日後には4千人を超えた。

「完全な誤算というか、ここまで感染力が強いとは思わなかった」

首相は東京の新規感染者数が初めて4千人を超えた7月末日、感染力の強い変異株（デルタ株）について、周囲にこう漏らしたという。「想定」を超える感染者数に、政権幹部は「五輪を見ても、感染者数のインパクトが大きすぎて盛り下がってしまう」とため息をついた。

今月2日には、病床を確保して必要な医療を提供するため、感染者が急増する地域では「入院制限」を実施する新方針を決定。5日に東京の新規感染者数が5千人を超えるなど、医療提供態勢の逼迫（ひっばく）が懸念される事態へと陥った。開催をめぐる首相は6月7日の参院決算委員会で「国民の命と健康を守っていく。これが開催の前提条件」と言い切っていた。

一方で首相は、**五輪が感染拡大に与えた影響は一貫して否定**。今月6日の記者会見でも「東京の繁華街の人流はオリンピック開幕前と比べて増えておらず、これまでのところ、オリンピックが感染拡大につながっているという考え方はしていない」と断じた。

ウイルスが猛威を振るうなかで五輪は閉幕。7～8日に実施した朝日新聞社の世論調査では**内閣支持率は28%と政権発足以降最低**を記録した。無党派層の内閣支持率は15%だった。五輪開催は「よかった」56%、「よくなかった」32%と評価が上回る一方で、首相が掲げてきた「安全、安心の大会」が「できた」は32%で、「できなかった」が54%と厳しい評価となった。

衆院の任期満了が10月に迫るなか、こうした状況に自民党内からは厳しい声があがる。中堅議員は「有権者は首相に嫌気がさしている」。ベテラン議員は「今までは、五輪が目くらましになってきたからまだ良かった」と漏らし、閉幕後への危機感を強める。

9月末の任期満了に伴う自民党総裁選をめぐっても、若手から「無投票はあり得ない。誰か出さないと」という声が漏れる。首相周辺は「これまでは無投票で再

東京五輪をめぐる首相の主な発言

人類がウイルスに打ち勝った証しとして、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する
2020年10月26日、臨時国会の所信表明演説

世界中に希望と勇気をお届けできる大会を実現するとの決意の下、準備を進める
21年1月18日、通常国会の施政方針演説

世界から選手が安心して参加できるようにするとともに、国民の命と健康を守っていく。これが開催の前提条件である
6月7日、参院決算委員会

(緊急事態宣言の際には)無観客もあり得ると私から明言している。国民の安全・安心を最優先にする中で対応していく
7月1日、記者団に

(五輪開催を)やめることは一番簡単なこと、楽なことだ(中略)挑戦するのが政府の役割だ
7月21日付米紙ウォールストリート・ジャーナル日本版

(パラリンピックの観客について)感染状況が変わってきたら、ぜひ有(観)客の中でのと思っている
7月21日、記者団に

これまでのところ、オリンピックが感染拡大につながっているという考え方はしていない
8月6日、記者会見



選できればと考えていたが、このままでは『選挙の顔を代えろ』となる」と危機感を募らせる。首相を支えるベテランはこう指摘した。「総裁選となればこれまでくすぶっている首相への不満が噴き出す。だから（総裁選を延期するために）9月に解散するんじゃないかという話も出ている」（小野太郎）

消えたチケット代 900 億円 巨額赤字、負担は東京都？

2021 年 8 月 11 日

五輪は何を残したか ③

朝日新聞 TOKYO 2020
DIGITAL

五輪は何を残したか③ グラフィック・米澤章憲



感染爆発の中、これまでとはまったく様相が異なる五輪が幕を閉じました。コロナ対応が問われただけでなく、膨れ上がった費用、課題が浮き彫りになった理念、商業主義などと今後も向き合うことになります。残されたものは何かに迫る連載です。3 回目では、大会後の負債穴埋めに直面する東京都の苦悩を描きます。

東京オリンピック（五輪）の開幕を 15 日後に控えた 7 月 8 日。深夜に始まった緊急の記者会見で、東京都の小池百合子知事は苦渋の表情を浮かべながら言った。

「感染拡大の防止に向ける観点から無観客とすることとなりました。断腸の思いでございます」この日夜、国際オリンピック委員会（IOC）と国、都、大会組織委員会などが五輪の首都圏での無観客開催を決めた。

会見を見ていた都幹部の脳裏には懸念とともに、あるやり取りが浮かんた。

「大会後の負担もお願いしますよ」

この幹部が首相官邸の関係者にそう言われたのは昨年 12 月。大会の 1 年延期で生じた追加費用 2940 億円の負担割合が都 1200 億円、組織委 1030 億円、国 710 億円で合意した際の雑談だった。

無観客で懸念が現実

「仮に大会が赤字になれば、都が負担するという意味だと理解した。無観客が決まり、まさにその懸念が現実になった」。幹部はそう振り返る。

無観客は最終的に 6 都道県に広がり、チケット代収入約 900 億円の大半が消滅した。組織委内では「コロナ対策などで追加の出費もある。数百億円規模の赤字は現実ではないか」との見立てもあり、ある大会関係者は「都と国で負担割合をどうするのか、大会後、大きな議論になるだろう」と語る。

鍵を握るのが、当時の大会招致委員会が 2013 年に IOC に提出した「立候補ファイル」だ。352 ページに及ぶ冊子には、「組織委が資金不足に陥った場合、都が補填（ほてん）することを保証する」と明記されている。

都幹部の一人は「拘束力はなく、政治的な宣言の意味合い」と読み解く。だが、ある大会関係者は「招致成功後、この文言を盾に、大会にかかる費用は、国ではなくて都に出させるという流れが作りあげられた」と打ち明ける。

その最たる例が、都内外の仮設会場をめぐる費用分担の問題だった。仮設整備費は当初、組織委

が全額負担する計画だったが、組織委は16年末、都内外の自治体にも負担させる案を提示。これに都外の自治体が強く反発したため、最終的に**都が都外自治体分も含め負担**することになった。

この大会関係者によると、組織委内には当時、都に負担が偏ることへの異論も出ていた。それでも都が負担を受け入れた背景には開催都市という立場に加え、巨額の法人事業税に支えられる財政の豊かさがあった。

財政豊かな東京都、コロナで事情が一変

だが、**都の財政事情は、1年半続くコロナ禍で様変わり**した。

「平時の大会で出た赤字を都が補填するのに異論はない。ただ、いまは有事であり、無観客はコロナ対策。都だけが負担を負わされるわけにはいかないし、都民も納得しない」

チケット代収入の穴埋めをめぐって、ある都幹部はいま、そう言い切る。

これまで**コロナ対策に充てた費用は5兆円を超え、都の「貯金箱」にあたる財政調整基金は9千億円超から、約2700億円まで落ち込んでいる。**この基金はもともと、**首都直下地震など将来の災害対策に充てることなどを想定**しており、別の都幹部は「コロナ禍の終わりが見えない中、都財政は火の車だ。国と厳しく交渉する必要が出てくる」と言う。

一方、丸川珠代五輪相は10日の閣議後会見で、「どういうところが結果的に支出が多くなったのか、あるいは逆に観客がいなかったことで支出をしなくて済んだ部分はどこなのか、精査を組織委にしてもらいたい」と言及。実際に都と協議するかどうかについては明言を避けた。財務省のある幹部は「(国からの交付税が配られない不交付団体の)都だから払えないわけがない。そもそも、国から埋める必要性はない」と冷ややかだ。

組織委の支出を検証する仕組みが不十分なことも課題となりそう。

開催時に最大で約7千人の職員が在籍した組織委は都、国、民間などからの寄り合い所帯で、来年夏をめどに解散する予定とされる。

大会関係者によると、各職員は退職する時に「業務報告書」を作成し、連絡先や業務を引き継ぐ。その後、組織委の各部門が報告書をまとめ、都や国から出向する幹部らを中心とした管理委員会に提出。管理委員会で審査の後、武藤敏郎・事務総長に報告する流れだという。

ただ、これらの文書を組織委の解散後どこで管理するのか、情報公開の対象になるのかなど現時点であいまいだ。複数の大会関係者によると、会議などの議事録に残さずに、職員が「手控え」としてメモなどにしている例もあり、**記録がどこまで残るか不透明**な面もあるという。1998年長野冬季五輪では、誘致の際の買収疑惑が浮上したが、**調査の過程で帳簿類がひそかに焼却処分**されたことが露見した。

「大会にかかった費用の使い道をチェックする第三者機関を立ち上げるよう提案する。それが大会を招致した開催都市である都の責任だ」。大会招致や運営に関わってきた都関係者の一人はそう主張する。

都が説明責任を問われるのは、組織委にまつわる費用だけではない。

都は、暑さ対策や渋滞緩和策など「大会関連経費」を含めると、**大会に向けて1兆4千億円を超える予算を投入**。加えて、新たに造った6競技場のうち、東京アクアティクスセンターなど**5施設は大会後、1年で計10億円超の赤字**が出るとされる。当初見込んでいた利用計画がコロナによって後退すれば、赤字額はさらに膨らむ恐れがある。

一方、日本選手が活躍したスケートボードなどの競技会場・有明アーバンスポーツパークなどの仮設施設は大会終了後、撤去することになっていたが、保存を求める声も上がっている。

都関係者は言う。

東京都が整備した大会施設

施設名と東京五輪で使われた競技		整備費
東京アクアティクスセンター	水泳	567億円
	大会後の年間収支見込み	-6億3800万円
海の森水上競技場	ボート、カヌー	303億円
		-1億5800万円
有明アリーナ	バレーボール	370億円
		3億5600万円
カヌー・スラロームセンター	カヌー	78億円
		-1億8600万円
大井ふ頭中央海浜公園	ホッケー競技場	48億円
	ホッケー	-9200万円
夢の島公園アーチェリー場	アーチェリー	9億円
		-1170万円

「大会に向けて何兆円というカネをつぎ込み、コロナ禍の中で開催した。それに見合うだけのものを、大会が都民にもたらしたのか。都は、丁寧に説明する義務がある」

(軽部理人、岡戸佑樹、前田大輔)

迷走の開会式、にじんだ不透明さ

TOKYO 2020  「昭和のやり方の弊害」

2021 年 8 月 12 日

五輪は何を残したか ④

五輪は何を残したか④ グラフィック・米澤章憲



開会式で、被災地の子どもたちから聖火を受ける

最終点火者の大坂なおみ選手(右端)。「多様性と調和」を象徴する人選だった=7月23日、国立競技場、内田光撮影

東京五輪の開会式を4日後に控えた7月19日、式で流す楽曲の制作メンバーの一人である小山田圭吾氏が辞任した。

「もう時間がない。私が作ります」

関係者によると、小山田氏の辞任が決まったことを受けて今後の方針を話し合う会議で、音楽監督の田中知之氏が差し替えの曲を制作すると申し出た。オープニングで使用される約5分間の、重要な2曲だった。

演出は細部まで組織委員会の承認やテレビの生中継に合わせた調整などが必要だった。結局、田中氏は一睡もせず、ほぼ1日で曲を作りあげたという。

演出チームの布陣が発表されたのは7月14日。同級生や障害者をいじめていたという過去のインタビュー発言が問題視され、小山田氏は2日後に自身のツイッターで謝罪。組織委は「現在は高い倫理観を持っている」として続投させる方針だった。だが批判は収まらず、海外メディアも「虐待」などと報じ、辞任に追い込まれた。

関係者によると、小山田氏の問題が明らかになった後、演出陣や出演者らの過去の言動の本格調査が急きょ始まった。ところが今度は、演出の全体調整を担うディレクターの小林賢太郎氏が、ナチスによるホロコースト(ユダヤ人大虐殺)を揶揄(やゆ)する表現を用いていた過去のコント動画がネット上で拡散。米国のユダヤ人権団体が非難声明を出す事態となり、小林氏は式前日の22日に解任された。

朝日新聞が入手した、発売中止になった開会式の公式プログラムのコピーには、運営責任者の苦しい胸の内が吐露されていました。繰り返された「オールジャパン」というかけ声の裏で、覆い隠されてきたものは何か。記事後半は、響かない理念と現実がちぐはぐになっていく過程を追います。

「あのプログラムが世に出ていけば…」

開会式の構成は変更されなかったが、開幕までのドタバタは「ダイバーシティ&インクルージ

ョン（多様性と調和）」という掲げる理念とはかけ離れた日本社会を、世界中に印象づける混乱ぶりだった。

小林氏の解任を受け、発売中止になった開会式の公式プログラムのコピーを、朝日新聞は入手した。運営責任者の日置貴之氏を紹介するページには「実質 120 日で本番を迎えるに当たり、演出企画チームや IOC と共に式典全体を見直し、改めて今大会の意義を問い直した」と記されている。開催都市や国家をアピールし、大会の理念を表現する重要イベントであるはずの開閉会式。その演出チームが、急ごしらえであることを明かしていた。

日置氏はまた、「式典自体に派手さはなく、現在、世に漂う苦悩や迷い、そして、演出企画チームがギリギリまで試行錯誤した、ありのままをお伝えしようと思いました」とも語り、苦しい状況に置かれていたことを吐露している。

一方、小林氏も選手の思いは尊いものとしつつ、「でも、開催を疑問視する声もまた、筋が通っている。だからこの式典の内容が、意見の分断を際立たせるものになってはいけない」と語っている。

組織委関係者は「あのプログラムが世に出ていれば、我々の苦しい状況も、もう少しは理解してもらえたのに」と話す。

幾人もの政治家から伝えられた演出への要望

2020 年 1 月、当初 8 人いた演出チームの一人がパワハラ行為で辞任。同年 3 月に五輪延期が決まると、組織委は祝祭感を抑えて簡素化を進めるため、狂言師の野村萬斎氏を統括とする 7 人の演出チームの解散を決めた。今年 3 月には、新たな統括になったクリエイティブディレクターの佐々木宏氏が、出演予定だったタレントの容姿を侮辱するようなメッセージを演出チーム内に送っていたことが発覚して辞任。佐々木氏の前に実質的な演出責任者を務めていた振付師・演出家の MIKIKO 氏が、昨年 11 月に組織委に辞表を出していたことも明らかになった。

佐々木氏の辞任後、残ったメンバーが仲間を誘って最終的なチームの原型ができた。関係者によると、小林氏が中心になって人選し、その中に小山田氏も入っていた。組織委は結成後に報告を受け、そのまま任命したという。

迷走の背景には、組織委の意思決定の不透明さがにじむ。

世界が注視する開会式はただでさえ盛り込むべき要素が多く、演出側にかかる負担が大きい。複数の大会関係者によると、幾人もの政治家から要望が伝えられ、「政治家案件は演出側を苦しめた」という声も聞かれた。

ある職員は、国や都、民間からの「寄せ集め」で構成された組織委のあり方そのものに問題の背景があると指摘する。「責任の所在をあいまいにしながら物事を進め、問題が出ると最前線の人間から切っていく。昭和のやり方で意思決定してきた弊害だ」と指摘する。

繰り返された「オールジャパン」というかけ声の裏で、覆い隠してきたのは「リーダーシップの欠如」だ。組織委幹部は「式典の進め方が定まらず、結果的に現場に負担を押しつけてしまったのは事実」と認めた。

組織委トップだった森喜朗元首相も今年 2 月、自らの女性蔑視発言で会長の座を去った。「いかなる差別も許さない」という五輪憲章に違反しているという批判を国内外から浴びながらも、辞任を表明したのは発言から 1 週間が経ってからだ。

コロナ禍、失われた「復興五輪」の機会

理念と現実のちぐはぐさは、開会式や組織委にとどまらない。「コロナ禍を前にかすんだ面は否めない」と大会関係者の一人が認めるのは、招致の際から掲げられた「復興五輪」だ。

「被災地のありのままの姿を世界に知ってもらう機会にしたかったが……」。東京電力福島第一原発の事故で、福島県浪江町から家族 6 人で福島市に避難した、片寄貴昭さん（50）は残念な思いをにじませた。被災地の状況を世界に発信したいと聖火ランナーに応募し、ふるさとを走った。

五輪の延期が決まった昨年 3 月、当時の安倍晋三首相は「完全な形」での開催を目指すと表明。

後を受けた菅義偉首相も「人類がウイルスに打ち勝った証し」と大会開催を位置づけた。だが、感染拡大は止められなかった。福島県内が会場になった野球とソフトボールも無観客開催となった。被災地を知ってもらうための多くの機会が失われた、と片寄さんは感じる。

ソフトボールの日本一豪州戦は無観客で行われた=2021年7月21日、福島県営あづま球場、朝日新聞社ヘリから、迫和義撮影

選手たちの活躍を前に、「開催できて良かった」と思う半面、「なぜ延期ができなかったのか」との疑問は消えないままだ。

福島第一原発から約7キロ離れた富岡町の帰還困難区域に自宅がある遠藤陽子さん（71）は「復興のための五輪という理念を感じることは出来なかった。復興という言葉が無理に五輪に結びつけたからだ」と話す。

自宅がある地区は原発事故による避難指示が続き、解除の見通しは立っていない。庭の木は雑木林のように伸び、室内にはネズミのフンが散らばる。昨秋に立ち寄った際は窓ガラスが割られ、空き巣に入られていた。

40キロ以上離れたいわき市で夫と息子、義母と暮らす。ただ、生まれ育った自宅が荒れる姿を見ると、自身のよりどころが消えていくような気がして、華やかな五輪との落差を感じる。「五輪が被災地の復興に何をもたらしたのか。招致した政治家の人たちに聞きたい」と話した。

（編集委員・後藤洋平、野村周平、古庄暢、飯島啓史）



米で低視聴率「テレビンピック」 転機？次の五輪ビジネス

2021年8月13日

五輪は何を残したか ⑤

朝日新聞 DIGITAL TOKYO 2020



五輪は何を残したか⑤ グラフィック・米澤章憲

「いくらか、運が悪かった」

東京オリンピック（五輪）が始まって1週間が経った7月29日、米国での五輪独占放映権を持つNBCユニバーサルのジェフ・シェル最高経営責任者（CEO）は決算説明会で、東京五輪の視聴率が予想よりも低くなっていると認めた。

同社によると、最も視聴率が高い夜間の「プライムタイム」の視聴者は平均1550万人だった。米メディアによると、NBCが1988年に五輪中継を始めて以来最低の数字で、2016年のリオデジャネイロ五輪と比べると42%の減少。18年の平昌冬季五輪からも22%下がった。

米国では日本との時差、新型コロナウイルスによる無観客、競泳のマイケル・フェルプスや陸上短距離のウサイン・ボルトのような絶対的スターの不在などで、視聴率は下がると当初から予想されていた。



さらに、米国で最大の注目選手だった体操のシモン・バイルスが多くの種目を棄権したことも影響した。スポーツ・ビジネス・ジャーナルでメディアを担当するオーステン・カープ氏も「NBCの予想よりも低い数字だったのではないかと分析する。

陸上競技会場のミックスゾーンに並ぶテレビ局のカメラ=2021年8月6日、国立競技場、細川卓撮影

国際オリンピック委員会 (IOC) にとって、NBC からの放映権料は最大の収入源だ。

IOCの収入の約7割を放送権料が支え、そ

のうち約半分を北米向けが占めている。

IOCは収入の約9割を、アスリート育成や世界各国の五輪委員会や競技団体への分配に使っているとしている。国際競技団体にとって、IOCからの分配金は死活問題だ。

競技団体は放送時間枠やテレビ映りを意識して、競技の姿を変えてきた。バレーボールがラリーポイント制を導入したり、柔道の畳がカラフルになったりしたのは、わかりやすさを求めた結果だ。

さらに、米国で人気のある競技は、**開催国に合わせるのではなく、米国のプライムタイムに合わせて行われる**ようになった。今大会では、米国が金メダルを獲得した男女バスケットボールや競泳などが、日本の午前に決勝が始まるよう設定された。

サッカー女子決勝も、炎天下の国立競技場で6日午前11時開始の予定だった。しかし米国が準決勝で敗れると、決勝は対戦国の要望を受けて前日夕方に急きょ午後9時開始に変更になり、会場も横浜に移った。無観客開催の特殊事情があるとはいえ、NBCの関心が薄まれば、日程や会場の変更は容易だとの受け止めが広がった。

五輪への依存度が低い競技ほど、IOCに強気に出られる。五輪より4大会に重きが置かれるテニスは男子の世界ランク1位、ノバク・ジョコビッチらが危険を訴えると、試合開始を4時間遅らせ、午後3時以降になった。

逆にホッケー女子3位決定戦の開始時間は午前10時半のまま。国際ホッケー連盟幹部は「五輪の素晴らしい舞台でできることを選手は感謝している。不満はない」。選手の健康を考えれば**「アスリートファースト」**は見かけ倒しだった。

IOCの手法「陰りはみえない」

NBCの低視聴率で、今大会が「テレビンピック」の曲がり角になるのか。

NBCは14～20年の放映権を43億8千万ドル（約4818億円）で獲得し、22～32年の6大会についても既に76億5千万ドル（約8415億円）の契約を終えている。この契約の際は**IOCが入札を行わずに独占交渉し、両者の一体ぶりが浮かんた。**IOCはブリスベン（豪州）で開かれる32年大会まで財政面での安定が保証されているとはいえ、NBCの姿勢は、五輪のあり方に大きく影響する。

ただ、相対的に見れば、東京五輪はNBCにとって成功だったという見方が強い。ストーリーミングサービスの台頭もあり、米



IOCの収入

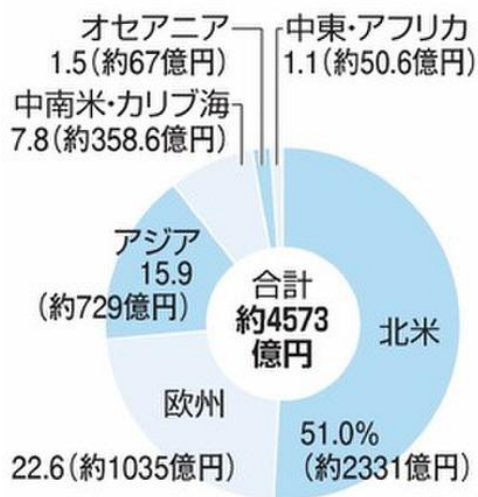
(2013～16年)IOC公式資料から

1ドル=110円で換算



IOC放送権収入の大陸別内訳

(2013～16年)IOC公式資料から



国ではテレビ全体の視聴者数が低下傾向にある。NBCは9日、「優越が続いている」として、他局と比べて2〜3倍の視聴者を集めたと総括。会社幹部は米メディアに「利益は非常に高い」と語った。さらに、NBCが昨年からはじめたストリーミングサービス「ピーコック」の会員は5400万人に上り、その要因の一つが、東京五輪だという。NBCは五輪の価値を、テレビだけで考えていない。また、NHK出身で、08年北京五輪では国際放送の映像制作に携わった藤原庸介・元日本オリンピック委員会（JOC）理事は言う。「IOCはNBCに依存してきたが、今後は中国に対し、経済成長に見合った放送権料を要求するだろうし、中東も潜在的に高騰を見込める。IOCの手法に陰りはみえない」

国内でのCM放映をしなかったトヨタ、それでも…

日本国内ではIOCのバッハ会長や五輪開催への逆風のなか、IOCの最高位スポンサー（TOP）のトヨタ自動車が開幕前の7月、東京五輪関連の自社CMを放映しないと表明した。長田准執行役員は「アスリートについてトヨタの精神をうたうものを作っていたが、日本で流すことはやめた」と語った。

それでも大会をサポートする姿勢は変わることなく、黒塗りの高級車レクサスを提供。来日したIOC委員は1台ずつ運転手付きであてがわれ、自由に会場を視察した。

IOCは「商業五輪」の扉を押し広げた1984年ロサンゼルス五輪の成功を機に権利ビジネスを本格化し、国際マーケティングプログラム「TOPプログラム」を始めた。85〜88年の1期目は9社から9600万ドル（約105億6千万円）を集めたのが、2013〜16年は12社から10億300万ドル（約1103億円）に増えた。バッハ会長は、これを24年までに3倍にする強気の青写真を描く。
（稲垣康介、ニューヨーク=中井大助）

スケボーが五輪に吹き込んだ新風

2021年8月14日

定着はあだになるか

朝日新聞 DIGITAL TOKYO 2020

五輪は何を残したか ⑥

五輪は何を残したか⑥ グラフィック・米澤章憲



スケートボード女子パーク決勝で4位になり、他国の選手たちに担ぎ上げられた岡本碧優＝北村玲奈撮影

日本武道館の会場裏にはすすり泣く声が響いた。

史上最多の金メダル9個を獲得した柔道の日本代表。女子で唯一、個人戦のメダルを手になかった63キロ級の田代未来（みく）（27）は「今まで何をしてきたんだろう」と震える声で自分を責めた。男女12階級でメダルを取ったリオデジャネイロ五輪でもメダルを逃した。帰国した日本の空港で、メダリストたちと違う通路を歩かされ

た時のショックが胸に深く刻まれた。

「地元で金メダルを取って笑顔で終わりたい」と挑んだ東京五輪は、2回戦敗退。女子代表の増地克之監督は「いつもの動きではなかった。かなりプレッシャーがあったと思う」。

2大会連続の表彰台を狙ったアーティスティックスイミングの日本代表はデュエット、チームともに4位だった。両方に出場した吉田萌（めぐむ）（26）は午前と午後の全体練習に加え、毎日のように午前5時半ごろから井村雅代ヘッドコーチの個別指導を受けてきた。

1日の練習時間は多いときで10時間近く。それでも「まだまだ足りていなかったのかな」と涙ぐんだ。1984年のロサンゼルス五輪以降、日本を率いた五輪すべてでメダルをもたらしてきた井村コーチは「申しわけない」と謝った。

悲壮感とは無縁の光景が、そこには広がっていた。

スケートボード女子パーク決勝。最終滑走者だった岡本碧優（みずぐ）（15）は難易度の高い演技に挑戦し、転倒した。4位。技の難易度を下げて成功していれば表彰台の可能性もあった。控え場所へ戻ろうとしたところ、ブラジルや豪州の選手たちに突然、担ぎあげられた。「目標としていた演技ができなくて悔しい。でも、（担がれて）とてもうれしかった」

今大会で初めて五輪に採用されたスケートボードでは、演技が成功すれば他の選手たちも拍手を送り、失敗すれば我がことのように悔しがった。

日本勢の史上最年少出場で銀メダルを手にした開心那（ひらきこな）（12）が予選1本目の演技を終え、真っ先に駆け寄った相手はフィンランド代表リジー・アルマント（28）だった。都心の最高気温が34.4度だったこの日、アルマントは自らがさすパラソルを傾け、開を日陰に入れた。開は「五輪がすごい大会というのは分かっているんですけど……。全然緊張しなかった」。

英国代表の銅メダリスト、スカイ・ブラウン（13）は、金メダルの四十住（よそずみ）さくら（19）、開と3人で肩を組みながら記者会見場に現れ、言った。「一緒に表彰台に乗れてうれしい」

「スケートボードが新しい世界をみせてくれた」と語るのは、オリンピックの為末大さんだ。

五輪において、日本のスポーツ界はこれまでの社会の価値観を反映していたと指摘する。「常に、決められたレースの中でランキングや勝利を重視していた。だから、『勝たなければ意味がない』という考え方になっていった」

これに対し、**スケートボードが違う評価軸を示した**とみる。「勝ち負けよりも『楽しんで自分らしさを表現する』という部分を大事にしていた」。他の競技はもちろん、社会全体にもこうした考え方が広がることを期待する。

■競技力強化、メダルの呪縛

とはいえ、五輪競技とメダルを切り離して考えるのは簡単ではない。

日本選手団は東京五輪で史上最多となる金メダル27個、メダル総数58個を獲得した。スケートボードは男女4種目のうち3種目で金メダル。“お家芸”と言われる体操や競泳を上回った。「これだけ注目されたのは、金メダルを取ったから」と日本スケートボード連盟の関係者は語る。

スポーツ庁の競技力向上事業では五輪・パラリンピックでの「メダル獲得の最大化」を掲げ、1年あたり約100億円の経費を各競技に配分してきた。

柔道は、2019年に強化費の重点配分を始めた当初から最上位「Sランク」に位置づけられる5競技の一つ。東京五輪でメダル獲得の可能性が高いとして、指定を受けていない競技よりも強化費が3割上乘せされた。Sランクは最終的に10競技に倍増し、スケートボードも名を連ねた。

8日に開かれた日本選手団の総括記者会見。今後の大会でもメダルの獲得目標を立てるのかと聞かれた尾崎貢総監督は、はっきりと答えた。「パリや（28年）ロサンゼルスも当然、**目安としての（メダル）目標を持たないと、強化策も出ない**」＝終わり（照屋健、波戸健一、荻原千明）